



unesco



From
the People of Japan

3rd Memory of the World Global Policy Forum

第3回 ユネスコ「世界の記憶」 グローバル・ポリシー・フォーラム

テーマ「危機に瀕する記録遺産のよりよい保存にかかる国際協力の強化」
Enhancing International Cooperation to better Safeguard Documentary Heritage at Risk

ユネスコ「世界の記憶」事業は、記録遺産の保存や、記録遺産への普遍的なアクセスの促進、そして記録の重要性に対する人々の認識の向上のため、1992年に開始された事業です。

今年、「世界の記憶」は30周年の記念の年を迎えました。これを機に、ユネスコと文部科学省は、災害時における記録遺産に対する被害を食い止めるためのパートナーシップ構築に焦点を当て、第3回目となるグローバル・ポリシー・フォーラムを日本で開催します。

実施方法	オンラインによる配信(一般のご参加はオンラインのみとさせていただきます)
言語	日本語・英語・フランス語・スペイン語(同時通訳あり)
開催日	2022年 11月22日(火)
参加費	無料
申込期間	2022年 11月22日(火)まで ※当日の申込み可

プログラム(予定) 2022年11月22日(火) 京王プラザホテルにて(東京)※オンライン同時配信

9:00~ 9:40 開会挨拶/フォーラム趣旨説明

9:40~10:00 **【特別講演】**
記憶を未来へ — 歴史文化関係者と市民の協働による
地域歴史資料防災に関する日本の30年間の取り組み —



開会挨拶
Tawfik Jelassi
(ユネスコ事務局長補)

10:00~12:00 **セッション1:**
自然災害 — 災害リスク軽減と国際協力を通じて、危機に瀕する
記録遺産をよりよい形で保護するための政策立案と能力開発に
おける成果を統合する —



「開会セッション」
まとめと提言
Jussi Nuorteva
(国際諮問委員会副議長)

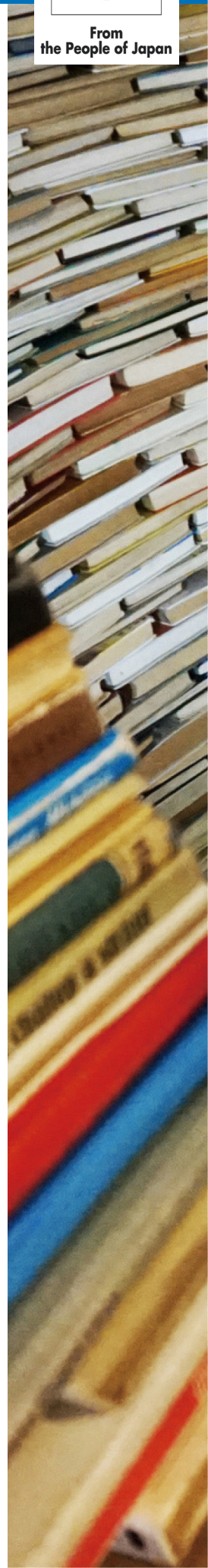
12:00~13:30 休憩

13:30~16:30 **セッション2:**
人為的災害 — 戦争や紛争の際に危険にさらされる記録遺産を
よりよい形で保全するための国際協力の強化への足がかり —

16:30~17:00 **閉会セッション**
1. フォーラムのまとめと新たな国際的パートナーシップを強固なものにする
次のステップへの提言
2. 国際協力の強化を含め、危機に瀕する記録遺産のより良い保護に取り組んで
いくための声明
3. 閉会の辞



閉会の辞
鎌田 薫
(国立公文書館長)



3rd Memory of the World Global Policy Forum

第3回 ユネスコ「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラム

テーマ 「危機に瀕する記録遺産のよりよい保存にかかる国際協力の強化」

Enhancing International Cooperation to better Safeguard Documentary Heritage at Risk

ユネスコ「世界の記憶」とは

「世界の記憶」事業は、自然災害や紛争等による記憶機関（博物館、図書館、文書館等）への被害等により危機的状況にあった記録遺産の保護の必要性から、1992年に設立されたユネスコの事業です。

人類史において重要な記録物を登録する事業が知られていますが、記録遺産の適切な保存やアクセスにかかる政策提言や能力開発にかかる研修、地域間協議や国際フォーラムの開催など、世界では幅広い取り組みが行われています。

ユネスコ「世界の記憶」

グローバル・ポリシー・フォーラム

2017年より日本政府が「世界の記憶」事業に拠出している日本信託基金により、ラテンアメリカ、アジア・太平洋、アフリカで、記録遺産の保存やアクセスにかかる能力開発ワークショップ等、様々な協力事業が行われています。事業の旗艦イベントである本フォーラムは、記録遺産の災害リスク軽減をテーマに2018年より開催されてきました。

第3回 ユネスコ「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラムの構成

第3回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラムの全体的テーマは「危機に瀕する記録遺産のよりよい保存にかかる国際協力の強化」です。これまでのフォーラムの成果を踏まえ、以下を目指して開催します。

- 既存の、また潜在的な国際協力メカニズムを活用し、危機に瀕した記録遺産の保護にかかる知識と理解を高めます。
- 危機に瀕する記録遺産の効果的な保護に向けての国際協力の強化を目的とした、新たなイニシアチブ、プロジェクト、資金の在り方を考えます。
- 危機に瀕する記録遺産を保護するための新たな国際的パートナーシップを強固なものにします。

主な登壇者 (予定)

特別講演

奥村 弘

(神戸大学副学長)

阪神淡路大震災以降、地域歴史遺産の保存活用の実践的研究を展開。歴史学会を中心とした歴史資料保全団体・歴史資料ネットワーク代表委員。神戸大学地域連携推進室長として、この分野で大学と市民の連携事業を展開。



パネリスト(セッション1)

Kwibae Kim

(MOWCAP議長)

韓国やユネスコで文化関連の職を歴任。現在「世界の記憶」アジア太平洋地域委員会-MOWCAP-議長、韓国ユネスコ国内委員会事務局長補。韓国でのMoW国際諮問委員会合やMoW登録申請ワークショップを担当。



パネリスト(セッション1)

Ana Ribeiro

(ウルグアイ教育文化副大臣)

歴史学博士。ウルグアイ・カトリック大学の名誉教授であり、長年同大学の歴史学研究所を牽引。2020年に教育文化省副大臣に就任。MOWLAC委員やウルグアイ・ユネスコ国内委員会委員長等も務める。



パネリスト(セッション2)

Barbara Lison

(国際図書館連盟会長)

ブレーメン公共図書館機構長、ドイツ図書館協会、ドイツ図書館情報協会会長等の関連団体の役職を歴任、国内外で積極的な図書館推奨活動に努める。図書館経営のあらゆる側面において主導的立場にある専門家。



パネリスト(セッション2)

Josée Kirps

(国際公文書館会議会長)

ストラスブールの欧州評議会文化委員会代表や、フランス語圏国際機構、ブリュッセル文化委員会役員等を歴任、長くルクセンブルクの文化遺産に関わる。現在、ルクセンブルグ国立公文書館長(2003-)。今年10月にICA会長に就任。



司会

Fackson Banda

(ユネスコ記録遺産課長)

ユネスコに12年勤務、メディア・リテラシーやジャーナリズム教育等に携わる。アフリカの政治思想とメディアを専門とする研究者で、ポスト植民地理論、市民教育とコミュニケーション等の分野の教育や出版を行う。



参加申込み

フォーラム参加登録サイトよりお申し込みください。

(開催日当日の登録も可能です)

<https://hopin.com/events/the-third-memory-of-the-world-global-policy-forum>

お問い合わせ

文部科学省「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会事務局

▶ mow-secretariat@mext.go.jp

ウェブサイト

第3回「世界の記憶」グローバル・ポリシー・フォーラム特設サイト

詳細はこちらをご参照ください。

<https://www.unesco.org/en/mow-global-policy-forum>



主催



共催



文部科学省



unesco

Memory of the World